

## 第2回 国立公園満喫プロジェクト有識者会議

### 議事要旨

1. 日時：平成28年6月27日（月）13：00～15：00

2. 場所：航空会館7階 702+703会議室

3. 出席者：

（政府側）

丸川珠代環境大臣、田村明比古観光庁長官、森本英香大臣官房長、亀澤玲治自然環境局長、正田寛大臣官房審議官、岡本光之国立公園課長、吉田一博自然環境整備課長、田邊仁国立公園利用推進室長、中島尚子温泉地保護利用推進室長、原田隆行林野庁経営企画課長、蔵持京治観光庁観光資源課長

（有識者・50音順、敬称略）

石井至（有限会社石井兄弟社社長）

江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

加藤誠（株式会社ジェイティービー旅行事業本部観光戦略部長、株式会社JTB総合研究所客員研究員）

野添ちかこ（温泉と宿のライター）

星野佳路（株式会社星野リゾート代表取締役社長）

涌井史郎（東京都市大学環境学部教授）

#### 4. 議事概要

##### ○丸川環境大臣より冒頭挨拶

第1回有識者会議でご指摘いただいた点について、できるかぎり情報を集めて本会議の準備をしてきた。不十分な箇所もあるかと思うが、一度資料にお目通しいただきたい。また、第1回会議でいただいたご意見の中では、5カ所の国立公園を選定するだけでなく、その後のプログラムを作り込んでいくプロセスにおいても協力したいとのありがたい意見も頂戴した。フォローアップの段階においても、委員の皆様方に本事業に関わっていただけるような調整にも努めてまいりたい。

EUからイギリスが離脱することを方針決定したことで為替が急激に変動し、インバウンドも一寸先は闇の状況だと感じられる。しかしながら、国立公園については、息の長い、根強いファンを長期にわたり獲得していくことが使命だと考えている。

##### ○田村観光庁長官より挨拶

目先の為替の動向によって旅行消費が影響を受けるとい現象は、今後も起こりうるだろう。しかしながら、中長期的に見て、少々の経済動向では影響の受けにくい、強靱な観光立国を作っていくためのコンテンツとして、国立公園の存在は極めて重要である。当面は5カ所

を決めるということではあるが、この選定作業の中で、今後国立公園を中長期的にどうしていくのか、その中で何をやっていくのか、公園制度自体をどのように変えていったら良いかという議論にも繋がるような忌憚のないご意見をいただきたい。

#### 議事（１）国立公園満喫プロジェクトの実施について

○各委員から資料１に基づき説明。

##### 【涌井座長】

- ・ただいまのプレゼンテーションの中で、選定にあたっての考え方に関して各委員から指摘のあった点を整理すると概ね以下の内容であった。
  - －活用と保護の一体化、別の言い方をすると、利益と保護と顧客満足度がどういう相関関係にあるのか。
  - －キーポイントは宿泊施設。
  - －労働力の活用以前に責任のある地域資本を活用すること。
  - －国立公園の利用、どう使いたいのかを明確にすること。
  - －やる気のある地域を対象にすべきである。
  - －東日本、熊本といった被災地域に配慮すべき。
  - －インバウンドもさることながら国内市場にも目を向けるべき。国内市場と国外市場は相関関係にあることを念頭に置くこと。
  - －自己責任の旅行文化をどのように醸成していくのか。
  - －世界自然遺産の登録地域を優先すべきではないか。
- ・国立公園というとヨセミテ国立公園などアメリカの印象が強いが、面積、予算、レンジャーの数、制度など、いずれの面においても米国と日本ではあまりに異なるため、一概に比較することは難しい。
- ・ニュージーランドのミルフォードトラックなどを見ていると、ボリュームとバリューどちらを重要視するのがよいのかということも考えさせられる。
- ・これからのツーリズムは、エデュテイメント（エデュケーション＋エンターテイメント）の時代が来るのではないか。個が尊重される時代になると、自己啓発をしながら楽しんで自分を成長させ、成熟させていくというタイプのツーリズムがより魅力的になっていくのではないか。これらを勘案しながら考えていくことが必要。

##### 【田村観光庁長官】

- ・インバウンドのためにレベルの高い観光地域づくりをすることは国内観光の振興にも極めて有効である。実際「明日の日本を支える観光ビジョン」におけるほとんどの施策は国内と国外の双方に有効なものとなっている。

- ・国内、インバウンド、両方のために、国立公園の施策は必要であると考えている。

#### 【涌井座長】

- ・日本が今後、少子超高齢社会になっていく中で、国土と都市の両方のレベルで生産性を維持するため、時間距離の短縮や生産年齢人口の都市への集約など、集中型の施策が検討されている。地方では、誰が国土の自然資本財やグリーンインフラを管理していくのかを考えたときに、国立公園がひとつの窓口になり得るのではないかと。担い手の勢力が後退することで、国立公園内の温泉旅館が廃業し、それにともない旅館従業員が管理していた登山道が荒廃するということもある。インバウンドという切り口は、マーケットだけを対象とした議論だけではなく、国土そのものをどう考えていくのかと同じ議論であり、非常に重要だと考えている。

#### 【加藤委員】

- ・この会議の委員を拝命したことで、これまで10数カ所の首長がモデル地域としての選定を要望するため、自分のところに来訪された。国立公園満喫プロジェクトの反響の大きさに驚いている。
- ・持続可能な事業にしていくことが重要であり、これまでの公園行政の中での再興戦略とすべき。
- ・受け入れ地域の推進部隊があるのか、また実際にできそうなのかという視点が大事であり、地域の持続的な予算が確保できるかといった視点も重要。
- ・江崎委員の発表にあった「三方よし」の中身について補足すると「資源の保護」「観光業の成立」「地域振興との融合」の3つ。また、エコツーリズム推進法では、「旅行者」「住民」「観光業者（ガイド等）」「研究者（専門家）」「行政」の5つの立場がバランスよく保たれることが重要としており、この視点は国立公園満喫プロジェクトの受け入れ態勢としても重要。

○事務局から資料2、3-1、3-2に基づき説明。

#### 【涌井座長】

- ・資料3-2（選定にあたっての考え方、メルクマール）については、今回しか議論する機会がないので、意見を欲しい。

#### 【江崎委員】

- ・「持続可能性」という指標が必要。DMOの存在によって瞬間的に取り組みを加速することはできても、将来にわたってどのように持続させていくのかという視点も必要である。人材をどう育て、考えを継承していくのか。エコツーリズムの国際基準には「教育」とい

う視点も含まれる。

－是非入れたい。(環境省)

#### 【石井委員】

・ DMOの組織的な性質として当然長期的な存続という視点は入っているので、この項目で持続可能性の内容を読めるのではないか。

・ 国だけでなく、地元行政や事業者もお金を出すくらいでないとうまくいかない。お金も含めた地元の熱意がとにかく重要。

・ 廃屋の活用、再生については、過疎債の補助率を上げるなど、総務省と調整するなどしてほしい。

－DMOの項目に、長期的、持続可能性といった点を追記したい。(環境省)

#### 【星野委員】

・ 国立公園となっている地域はそもそも自然が豊かであり、魅力的であり、素晴らしく、どこも資質があるので、ある意味でどこを選定してもよい。ただし取り組むに当たっての体制が重要となる。

・ 林野事業は観光と違った観点で様々な利害があり、異なる軸での優先順位があると感じられるので、林野庁が取り組み易い地域を選ぶと、環境省、林野庁、観光庁の3省庁で連携できてよいのではないか。

・ 地元のやる気も大事だが、やる気はお金が儲かれば必然的に出てくるものである。そのためにはまず規制緩和が必要。どこをどう緩和するのかさえ発表すれば資金は集まる。その際、日本の国立公園の魅力を向上させて世界から人を呼んでこようとするのであれば、地元だけの事業にするのではなく、世界を相手に費用負担を求めてもよいのではないか。

－林野庁との連携は非常に重要だと考えている。相談しながら進めていきたい。(環境省)

－持続性が重要であること、山に関心を持ってもらい観光活用したいことという点は林野庁も同認識。世界遺産や森林生態系はしっかり守る必要があるが、公益重視と地域振興が国有林の使命と考えており、省庁間で協力していきたい。(林野庁)

#### 【涌井座長】

・ 林野庁は、森林の利用を進めることについては慎重になっているのかもしれないが、勇気を持って進めていただきたい。

・ ケニアのマサイマラ国立保護区では、リチャード・ブランソン氏が投資して生物保護区(サンクチュアリ)を整備している。またマサイ族自身が自分たちの集落そのものを観光的に変えていくことで、観光の魅力価値を上げている。資料3-2の記載について、今現在外国人にとって魅力があるかではなくて、それを磨けばより高い魅力を発揮できるかどうか、という視点を重要視してほしい。

【江崎委員】

- ・ やんばる国立公園が 33 番目の国立公園指定、吉野熊野国立公園に隣接する沿岸地域の国立公園地域への編入、また、慶良間諸島国立公園の指定など、海域の魅力が再発見されている。海域のような共有資源における磨き上げという視点も重要ではないか。
- ・ 地元の資本については、バラバラにしてしまうのではなく、それぞれが協議をしたうえで 1 つにまとまって考えていける場があるとよい。

【加藤委員】

- ・ 資料 3-2 のメルクマールはある程度整理されているのではないか。
- ・ 今回モデル地域に選定されることによって地域がどうなるのか、どのようなメリットがあるのかを予め明確に示す必要がある。この後の取組を進めるにあたり、地域との認識との間に齟齬がないようにしてほしい。
- ・ 時間も限られていると思うので、ある程度選定が選んだ段階で、地域の声を聴きたい。

【野添委員】

- ・ 地域のやる気といった時に、地域とは都道府県、市町村、観光協会、事業者など、どこまでを地域と捉えるのか。また、何をもってやる気があると捉えるのかを検討する必要がある。都道府県に熱意があっても民間の事業者まではついてこないかもしれない。また熱意のあるリーダーだけでもうまくいかない。
- ・ 今は光ってなくても磨けば光るという資源の方がよいのではないか。

【星野委員】

- ・ 選定に当たっては当然全国で地域バランスは考慮されると思うので、あとはその中でより推進しやすい国立公園を選ぶのが一番よい。例えば 3 県にまたがる国立公園は利害関係者が多くなり、調整が大変かもしれない。関与する主体がまとまりやすいことが重要。

【石井委員】

- ・ 青森、秋田、岩手の北東北 3 県は協議会があり、日頃から官民一体で観光に取り組んでいる。十和田八幡平国立公園など、3 県にまたがっているけれども上手くいく事例として、示せばよいのではないか。

【涌井座長】

- ・ 資料 3-2 の 1 ページ目に挙げられている「基本的な考え方」のうち、2 つ目については、「資質の有無」ではなくて「磨くにふさわしい資質」が適当。
- ・ 個人的には、たくさんお金があるようなところよりも、とにかく自然資本を大事にして、

そこを誇りにして生きていきたいと思っている場所を優先したい。

- ・文化資源に関する記述が欠けている。我が国に独特のライフスタイル、習俗、文化、風土、食、物の見方、信仰といった視点も必要ではないか。

【丸川大臣】

- ・いかに磨く意欲と能力があるかという点を見られるような選定の方法で進めていきたい。

【江崎委員】

- ・実施箇所の選定は募集型でないと思うが、どのように進めているのか。今回参考資料として出された都道府県ヒアリング書類はどのような位置付けなのか。
- －国立公園のある全都道府県に今回のヒアリングの照会をしている。今回のヒアリングは、応募したいかを聞いたのではなく、各公園のインバウンド受入の基礎資料として提出を依頼したもの。地域からの要望状況は別途整理して共有する。(環境省)

【涌井座長】

- －選定にあたっての参考資料としての位置付けということで理解した。
- －事務局としての候補は次回お示ししたい。(環境省)

【星野委員】

- ・自分は次回出席できそうにないが、環境省がこの5か所程度がいい、林野庁もここなら規制緩和できるという箇所になっているのであれば異存はないのでその旨申し添えておく。
- －林野庁、観光庁と相談のうえ案をつくったうえで、星野委員には事前にご説明させていただく。(環境省)

【田村観光庁長官】

- ・改めて印象に残ったのは、今回選ばれると何ができるかを明らかにすべきということ。
- ・事業を進めていくうえではもちろん地元の熱意と協力も大事だが、資本の面ではディーブポケット(十分な財力を持った主体)は世界中にいたので、地域に貢献してもらえることが大前提ではあるが、必ずしも地元限定した議論をしないほうがよいということだと思ふ。

○亀澤自然環境局長より閉会の挨拶

本日は、実施箇所を選定するうえでのポイントから選定してからどうするか提案まで、幅広くかつ具体的なお意見をいただいた。持続可能性、資質を磨くことの重要性、実行体制の問題など重要なご指摘もいただいた。本日いただいたご指摘をもとに、第3回会議に向けて、関係省庁とも相談しながら具体的な候補地をお示しできるように作業を進めて

参りたい。